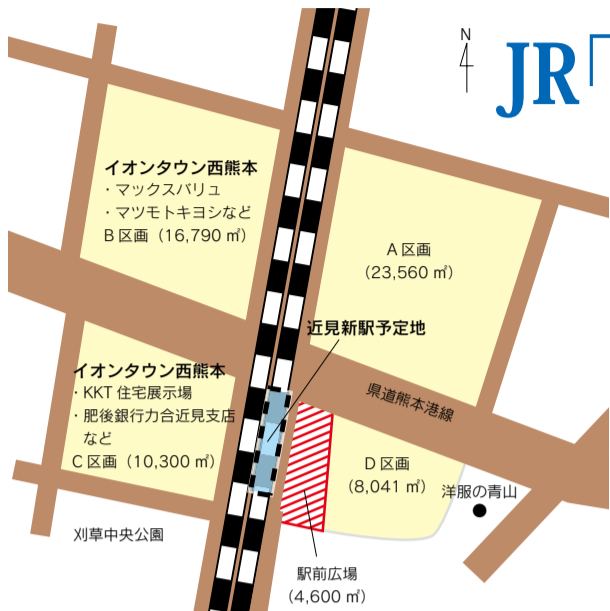


開発

街の変化をカメラレポート

JR「近見新駅」、熊本市が2016年に開業意向

熊本市西南部開発



▲熊本市南区島町、上ノ郷一帯の県農業試験場跡地区割り



▲県道熊本港線、県道並建熊本線沿線の周辺図 (熊本市南区、西区)



熊本市は、同市南区島町4丁目と同刈草1丁目にかかるJR鹿児島本線に設置を計画している新駅「近見新駅」(仮称)を早ければ2016(平成28)年にも開業させる。JR九州と新駅設置に関する覚書を締結したい意向で、順調に進めば13年、駅舎の設計に入り、14年に着工し16年の完成、開業をにらむ。総工費は10億円を見込んでい

場所は、県道熊本港線沿い、KKT住宅展示場東側。熊本駅から3.1km、川尻駅から2.2kmに位置する駅は高架駅を予定し、市が建設費用を負担する請願駅となる。

市は09年に改定した第2次都市マスタープランの中で、新駅予定地の「上ノ郷」地区を地域拠点として位置付け。県道熊本港線が国道57号東バイパスにつながることから、駅前広場は市民病院や済生会熊本病院など沿線の大型病院などにアクセス向上を図る交通結節点として、バスとの連携を重視した整備を進める方針だ。

▲「近見新駅」(仮称)の新設が予定されている熊本市南区島町の地図。新設されるのは、上ノ郷地区の農業試験場跡地。この地区は、かつては、農業試験場の向かい側に、KKT住宅展示場や、ION熊本の店舗などがある。この地区は、かつては、農業試験場の向かい側に、KKT住宅展示場や、ION熊本の店舗などがある。この地区は、かつては、農業試験場の向かい側に、KKT住宅展示場や、ION熊本の店舗などがある。



▲宮野さんが勤務する高木富士川計画事務所のオフィス (上) を置く蔵は築200年。写真下の住居と合わせ約160万円で改修した



▲中唐人町の唐人町通りにある自然食材・雑貨「ピュアリアル」(左)、居酒屋「かわばた」(右端)は助成制度を活用し主に屋根を改修した



▲足場が組まれた早川倉庫の母屋前で工事の綿密な打ち合わせ。左から施工する宮本建設 (中央区新町) の宮本茂史専務、祐三さん、父で代表の早川礼三さん (63歳)。宮本さんは新町古町町屋保存会の会長を務める。工事費用は400万円、うち半分を市が助成する

城下町に再生のつち音

新町・古町地区の町屋再生

熊本市の新町・古町地区におよそ400軒が残るといわれている町屋は、家主の高齢化などを理由に年に10軒程度が姿を消しているという。その町屋に息を吹き込み再生を図ろうと、呉服、慶徳校区の同地区で年季の入った建物を改修する動きが始まっている。今年度から始まった市の助成制度の活用や自費で住居や仕事場に再生したケースも。熊本駅と中心市街地をつなぐエリアで創出される城下町風情は、県内外から人を引き付ける新しいまちの魅力の一つに加わりそうだ。

万町2丁目の早川倉庫では、市の景観形成建造物助成金を利用し築135年の建物の外壁をモルタルから建築当時の黒しついに塗り替える工事が進行中。年内にも住居の姿に生まれ変わる。地域計画コンサルタントの宮野桂輔さんは、小沢町の坪井川沿いにある江戸後期の蔵と明治期に建った屋敷を自費で改修し今年7月、熊本市東区から移り住んだ。陶芸家など県内で活動する作家のギャラリーとしての活用策も温めている。

▲昨年結婚し夫と実母の3人で母屋に住む宮野さん。この通りは昭和初期に建てられた茶室もある。蔵はその後方に

▲唐人町通り、創業100年余りの履物店「蔵屋」(呉服町)は店舗正面を600万円で改修(市が半分を助成)した。「この通りはシャッターは似合ってます」と3代目の歌津十紀雄さん(79歳)。格子戸が自慢のよう